

水 稲

“良質米生産は健苗育成から”

育苗管理

移植日を定めて適正な育苗計画を立てましょう!

品 種	浸種・催芽	播種	育苗日数	移植
ハナエチゼン	3月下旬	4月上旬	25日間	4月下旬～
コシヒカリ	4月中旬	4月下旬	18日間	5月15日以降
あきさかり	4月中旬	4月下旬	20日間	5月中旬～

※あきさかりについては、コシヒカリより10日以上早く植えると、収穫時期が重なるので注意する。

項 目	作 業 の ポ イ ン ト
浸 種	水道水を使い、水温15℃で7日間程度行う。 ハナエチゼンの時期は気温（水温）が低くなるので2～4日程度長めに行う。 浸種開始後3日間は水の交換をせず、その後は、2日毎に交換する。
催 芽	30℃で1日程度保温し、ハト胸状態にする。
播 種	播種量 乾粃135g/箱（催芽粃168g/箱） 播種覆土後、ダコレート水和剤500倍液を、一箱あたり500cc灌注する。
ハウス準備	立枯病の原因となる雑草や稲わらなどの有機物は、ハウスの外に出す。
出 芽	出芽器の温度は32℃を厳守する。
緑 化	育苗ハウスに出して2日程度は育苗シートをかけ、低温（10℃以下）に注意する。 高温時は徒長防止のため、最初の7日間は温度管理に注意する。（15～25℃）
硬 化	かん水は天候によってその有無や量を加減し、できるだけ午前中に行う。 移植の3～4日前からハウスやトンネルを開放し外気にさらす。

平成31年春の農作業安全確認運動の展開について

～テーマ～

「まずはワンチェック、ワンアクションで農作業安全」

農業就業人口が減少する中、毎年約300人以上発生し続けている農作業死亡事故を減少させるため、春作業が行われる3～5月を重点期間として、関係団体・企業等と一体となって「春の農作業安全確認運動」を展開します。

平成31年の運動については、GAP（農業生産工程管理）の周知を通じた現場の改善活動、農業者への安全確保の声かけ・注意喚起等の農作業事故防止対策の取り組みを推進します。

